

運用経過のご報告

2025年2月～2025年7月

ダブル・ブレイン

ダブル・ブレイン（マイルド）／ダブル・ブレイン（ブル）

追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）

ポイント

- 1 ファンドの運用状況と投資環境
- 2 ファンドの特性
- 3 注目トピック
- 4 今後の運用方針

マーケットの大きな下落にも できるだけ耐えられるような設計のもと 「ダブル・ブレイン」は生まれました。

「ダブル・ブレイン」とは

2つの戦略を活用し、成長を捉えながら危機に備え、下落時でも収益を狙うことで、資産価格の大幅な下落の抑制を目指します。



* 目論見書などではリスクコントロール戦略を「ターゲットリスク戦略」、トレンド戦略を「ダイバーシファイド戦略」と記載しています。

各戦略の特徴



リスクコントロール戦略

- 24時間休むことなく、リスクをコントロールしながら、世界の多様な資産に投資します。
- 10分ごとに価格動向を分析。相場異変を察知した場合は、リスク資産への投資配分を大幅に削減し、損失抑制を図ります。
- 相場下落傾向を察知した場合は、資産の値動きに応じて投資配分を調整します。
- 市場異変時や下落時に、2つのブレーキにより各資産のウェイトを下げます。



トレンド戦略

- すべての投資対象市場の「上昇傾向（トレンド）」や「下落傾向（トレンド）」を判断。価格の上昇局面だけでなく、下落局面においても収益機会があります。
- 高度なテクノロジーに裏付けされた戦略に基づき、世界中の市場を対象としてポートフォリオを構築。リスクの低減と取引機会の拡大を追求します。

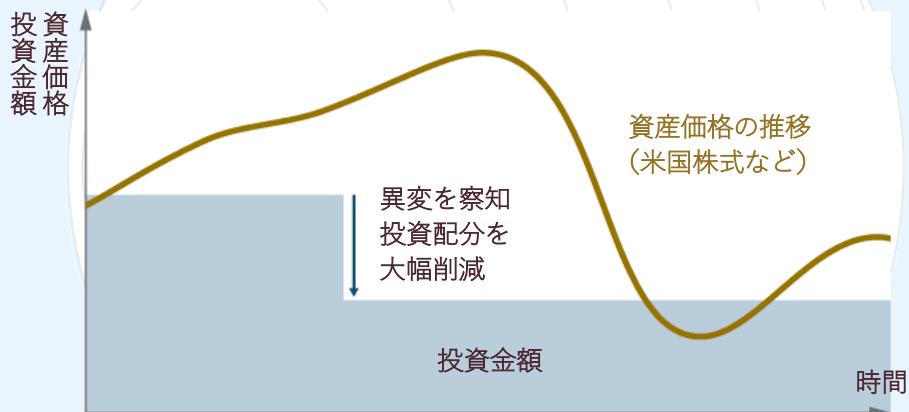
資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

各戦略のイメージ

BRAIN
A

リスクコントロール戦略

通常時は資産成長を追求しますが、システムが相場異変を察知すると、全体の投資額を大幅に削減し、リスクを抑えます。

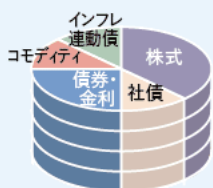


<ご参考> リスクコントロール戦略の2つのブレーキ

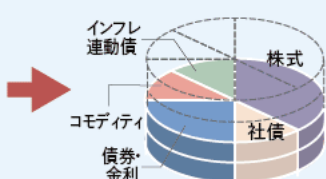
ブレーキ①

市場の異変（株式および債券の同時下落）を察知した場合の急ブレーキ

市場の異変を察知し…



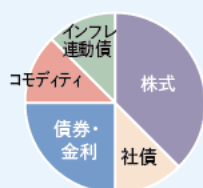
投資配分を大幅に削減



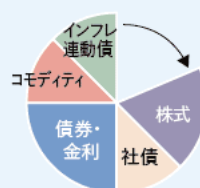
ブレーキ②

各市場について、下落傾向となった場合に、下落の強さに応じてブレーキ

各市場の下落トレンドを察知し…



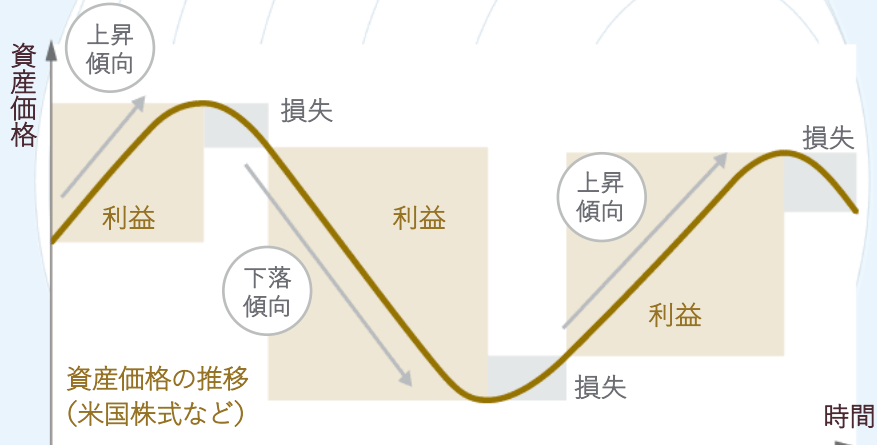
投資配分を調整



BRAIN
B

トレンド戦略

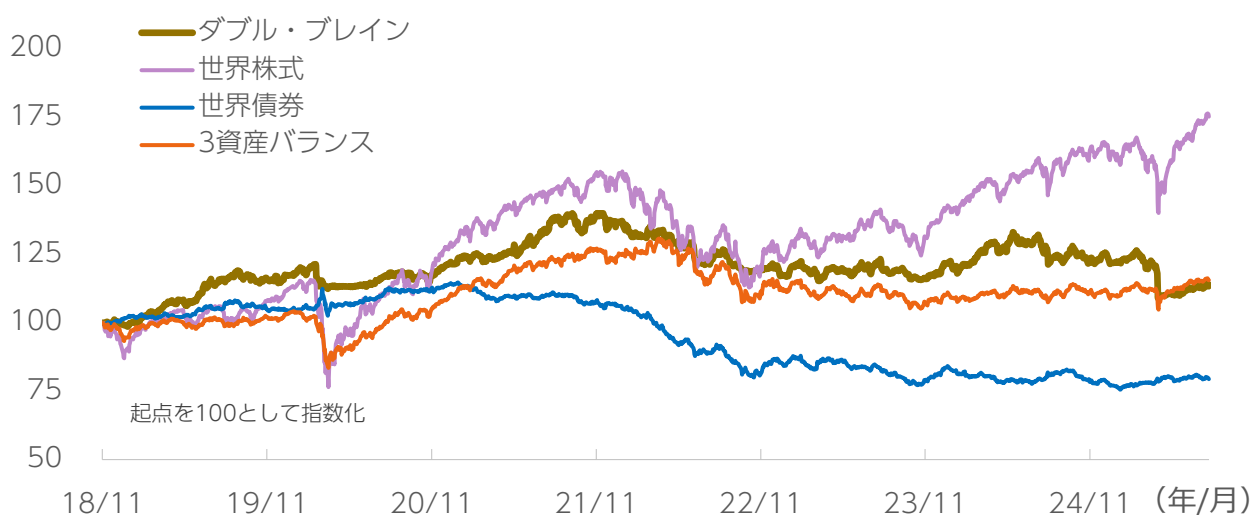
価格の動きに基づいて資産配分を決定し、資産価格の上昇と下落の両方を収益機会として捉えます。



ファンドの運用実績

- ダブル・ブレイン設定来、2020年の新型コロナウイルスの感染拡大やその後の世界的なインフレの高まり、各国・地域の中央銀行による金融引き締め姿勢などを受け、株式・債券市場ともに変動が大きい展開となりました。2025年以降も米国の関税政策を巡る不透明感などを受けて変動の大きい展開が続いています。
- そのような環境下、リスクコントロール戦略は市場局面に応じてブレーキを発動させることで損失の抑制を図り、トレンド戦略は下落局面での収益機会を捉えるなどして、ファンド全体の下落抑制を図ってきました。しかし、2025年4月の米国の関税政策を巡る不透明感を背景とした株式市場の急落を受けてファンドの基準価額は下落しました。その後は株式市場が反発し、ファンドの基準価額は緩やかに回復しています。

ダブル・ブレインと各資産〈円ヘッジベース〉のパフォーマンス推移



各ファンドのパフォーマンス推移



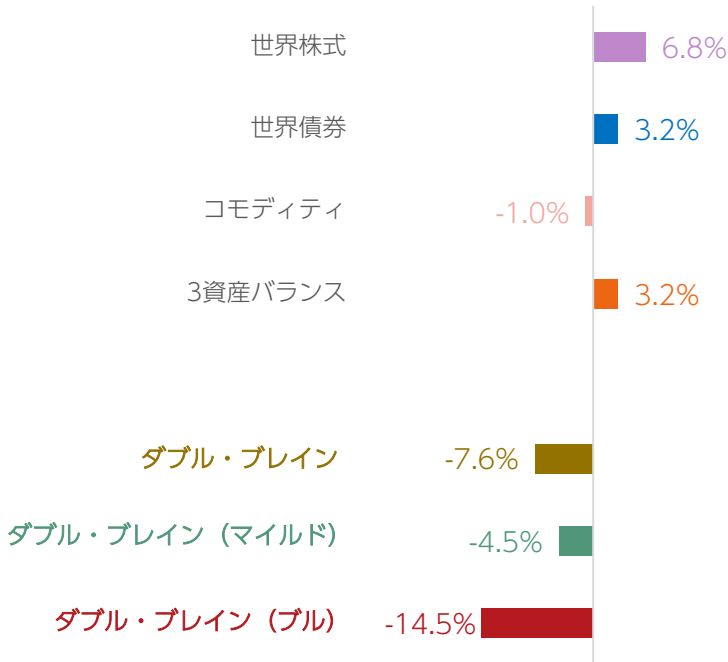
期間：2018年11月9日（設定日）※～2025年7月31日、日次。※ダブル・ブレイン（マイルド）／（ブル）の設定日は2021年3月3日。
 ファンドは基準価額を使用しています。上記期間において、分配金実績はありません。
 3資産バランス（円ヘッジベース）：世界株式（円ヘッジベース）、世界債券（円ヘッジベース）、コモディティ（円ヘッジベース）を1/3ずつの割合で、各資産の日次騰落率を基に日次バランス（相場変動などにより変化した投資比率を調整し、1/3ずつの割合を維持）を行なったものとして、野村アセットマネジメントが独自に算出。
 使用した指数等については12ページをご参照ください。
 （出所）ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成
 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

ファンドを取り巻く投資環境

各資産〈円ヘッジベース〉とファンドの騰落率

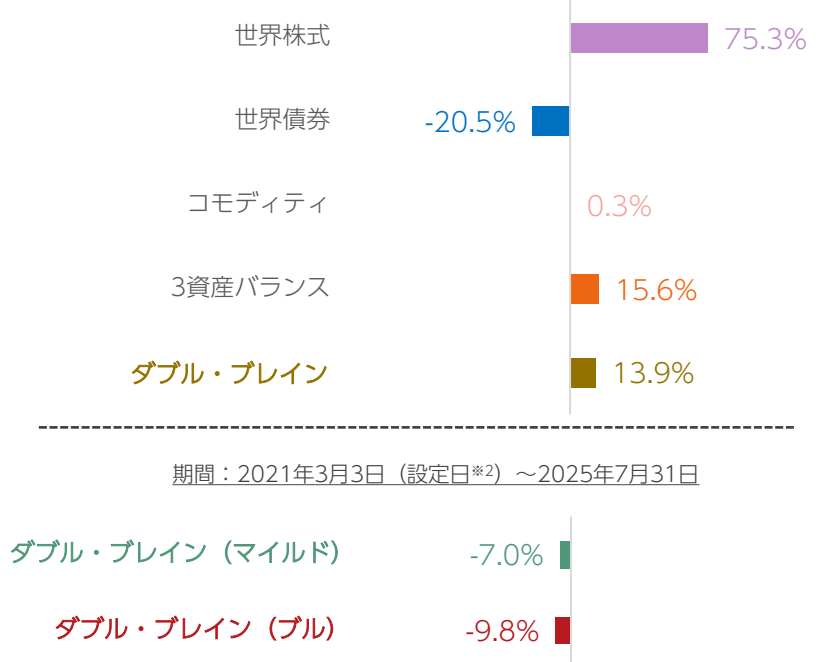
<直近6ヵ月>

期間：2025年1月31日～2025年7月31日



<（ご参考）設定来>

期間：2018年11月9日（設定日※1）～2025年7月31日



※1 ダブル・ブレインの設定日。※2 ダブル・ブレイン（マイルド）／（フル）の設定日。

直近6ヵ月における各資産の動き

世界株式	4月前半にトランプ米大統領が発表した相互関税を巡る不透明感を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まりましたが、その後は相互関税の適用を90日間の停止したことなどで投資家のリスク選好姿勢が強まり、世界株式は上昇しました。5月以降も堅調な経済指標や良好な企業決算などにより、世界株式は上昇しました。
世界債券	米国の相互関税を巡る不透明感や4月の米消費者信頼感指数の大幅な低下等を受け、4月に米景気の悪化懸念が強まったことなどから米国債を中心に世界債券は上昇しました。その後も、トランプ米大統領によるFRB（米連邦準備制度理事会）への利下げ圧力などにより米国債の上昇が継続しました。
コモディティ	コモディティは下落しました。種別では、米国の関税政策を巡る不透明感などを受けて金価格が上昇しました。原油価格は米国の関税政策による世界景気の減速懸念を受け、4月に大幅に下落しました。6月にかけてはイスラエル・イラン間の緊張の高まりを背景に一時的に上昇したものの、その後は両国の停戦合意により下落しました。

3資産バランス（円ヘッジベース）：世界株式（円ヘッジベース）、世界債券（円ヘッジベース）、コモディティ（円ヘッジベース）を1/3ずつの割合で、各資産の日次騰落率を基に日次バランス（相場変動などにより変化した投資比率を調整し、1/3ずつの割合を維持）を行なったものとして、野村アセットマネジメントが独自に算出。使用した指数等については12ページをご参照ください。

（出所）ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

ファンドの運用経過

ダブル・ブレイン

2025年2-7月のリターンはマイナスでした。4月前半に米国の相互関税を巡る不透明感や予想を下回る経済指標等から投資家のリスク回避姿勢が強まり、株式市場が下落したこと等がマイナスに影響しました。今後も、米国の関税政策を巡る動向から、不安定な展開が予想されますが、引き続き日々の市場のリスクをモニタリングして、各資産のポジションをシステムに基づいて機動的に変更し、運用を行ないます。

リスクコントロール戦略

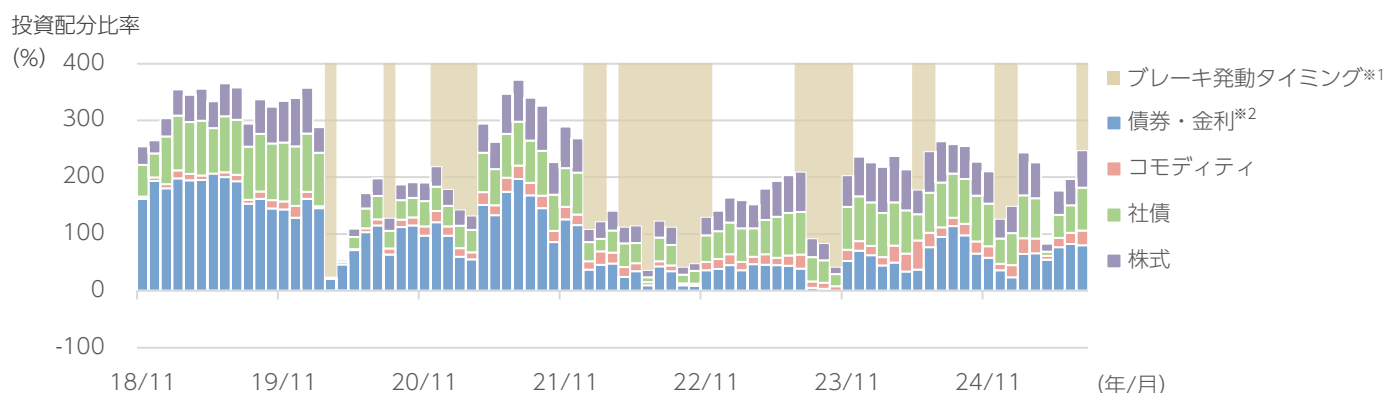
2025年2-7月のリターンはマイナスでした。株式市場が下落する中、株式セクターで損失が発生したものの、金価格の上昇などを受けコモディティセクターはプラスに影響しました。4月に株式への投資配分を引き下げた後、5月以降の市場が安定したことを背景に、再び株式への投資配分を引き上げました。

トレンド戦略

2025年2-7月のリターンはマイナスでした。株式市場の急落が発生する中、株式の買いポジションから損失が発生したほか、トレンドが定まらない通貨や債券のポジションから損失が発生しました。債券・為替市場におけるトレンドの転換もマイナスに影響しました。

下記はダブル・ブレインが投資対象とする外国投資証券の運用実績です。

ファンド全体における各資産のウエイト（概算）

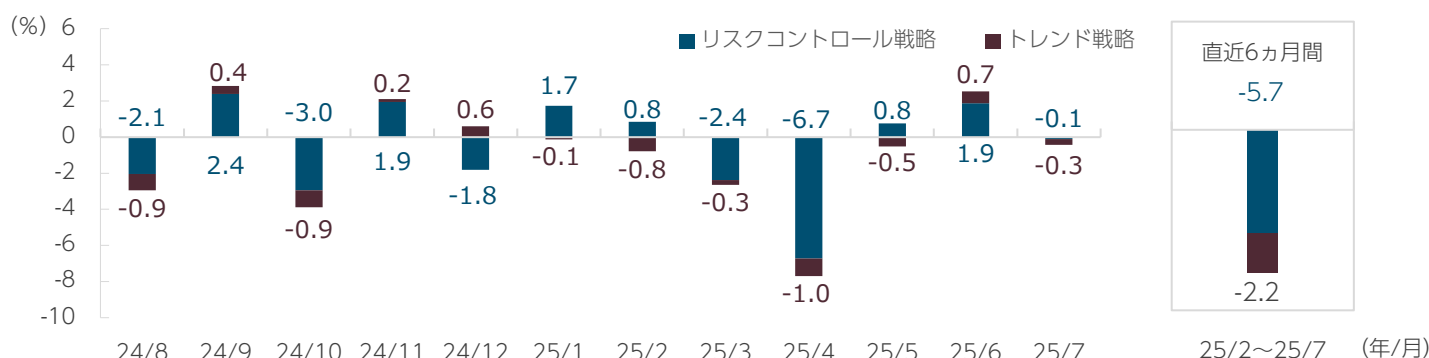


期間：2018年11月末～2025年7月末、月次

※1 ブレーキ発動タイミングは、リスクコントロール戦略のブレーキが月中で発動していた際に、月単位で発動の有無を開示しています。ブレーキ発動は10分毎に株式と債券の価格動向を分析し、相関が高まり同時に下落する局面で発動します。ブレーキの発動タイミングが必ずしもファンドへプラスのパフォーマンスを与えるとは限りません。

※2 債券・金利はインフレ連動債を含みます。

各戦略のパフォーマンス寄与度



期間：2024年8月～2025年7月、月次

各戦略の寄与度の合計値は、投資している外国投資証券の月末基準のデータであること、外国投資証券およびダブル・ブレインにおいて運用管理費用等が発生すること、為替ヘッジコストまたはプレミアムが発生することなどから、ダブル・ブレインの騰落率とかい離が生じる可能性があります。

(出所) マン・グループのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

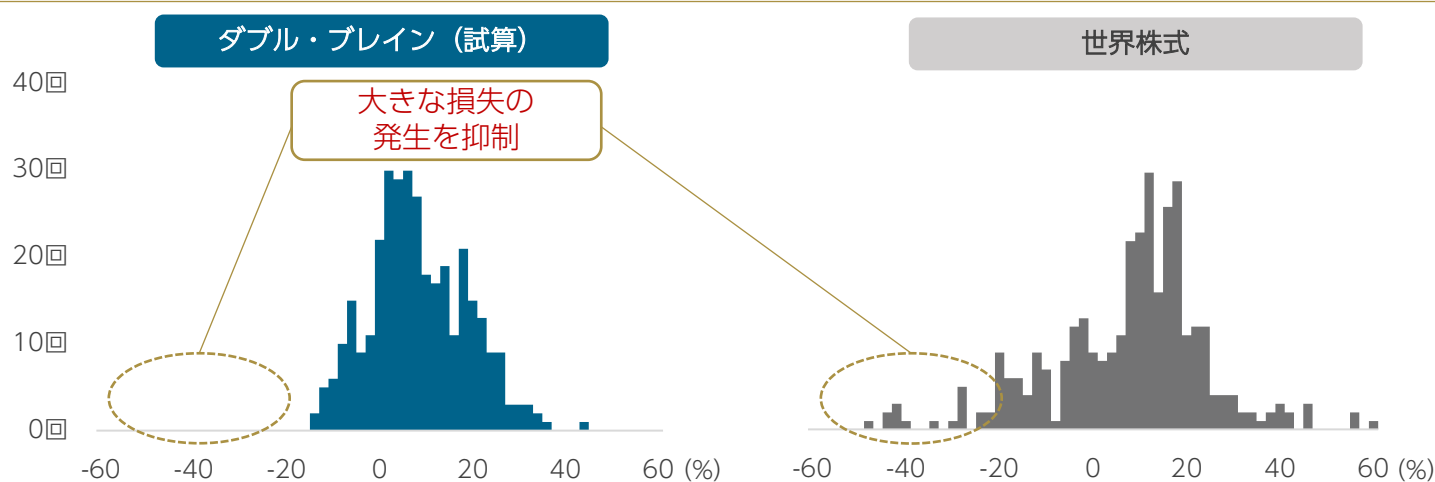
保有時のリターンでみる

ファンドの特性と長期保有の有効性〈円ヘッジベース〉

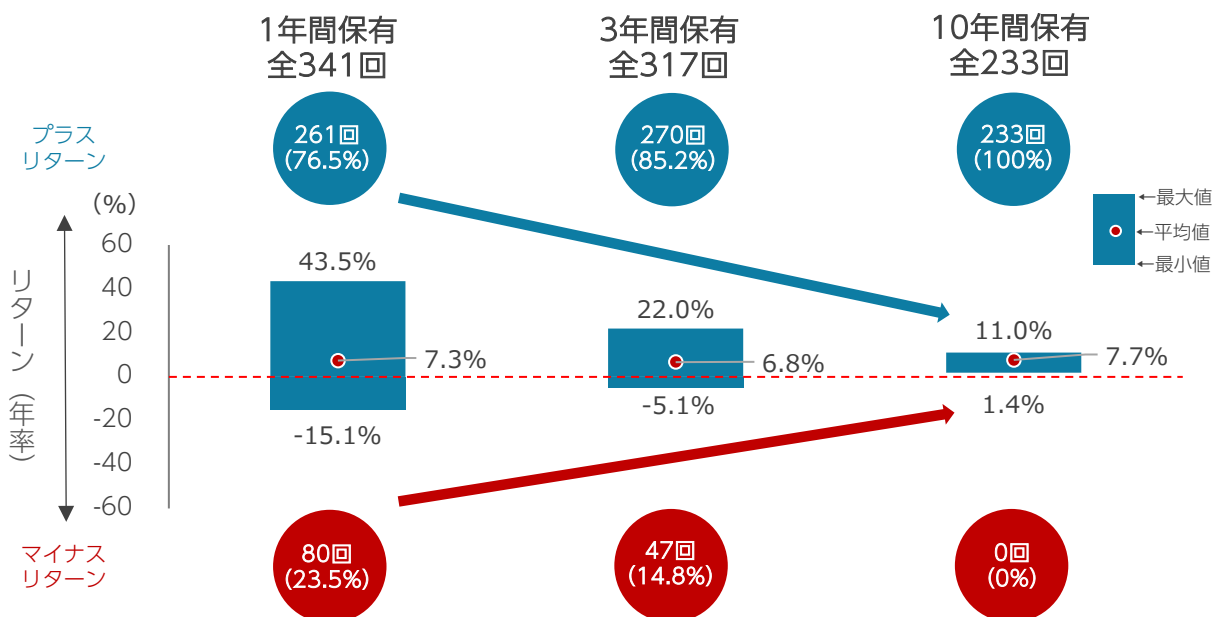
下記はファンドにおける運用の考え方をご理解いただくためのご参考情報であり、ファンドの運用実績ではありません。
また、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。ダブル・ブレイン（試算、円ヘッジベース）については12ページをご参照ください。

- ダブル・ブレイン（試算、円ヘッジベース）は、1年間保有した場合のリターン分布をみると、世界株式（円ヘッジベース）と比べ大きな損失の発生を抑制しました。背景としては2つの戦略が補完関係にあることや、ファンド全体のリスク量が一定となるよう市場のリスクを日々モニタリングし、投資配分比率を機動的に調整していることが挙げられます。
- また、保有期間別リターンをみると、ダブル・ブレイン（試算、円ヘッジベース）は長期で保有するほどリスク（リターンの振れ幅）が小さくなる傾向が確認できました。

1年間保有した場合のリターン分布の比較〈円ヘッジベース〉



保有期間別リターン ダブル・ブレイン（試算、円ヘッジベース）の場合



期間：1996年3月末～2025年7月末、月次
プラスリターン／マイナスリターンの●内にある括弧内の数値は、各保有期間の計測回数に占めるプラス／マイナスとなった回数の割合を示しています。
1996年3月末から2025年7月末の月次データを基に、基準月まで一定期間保有した場合の年率リターンです。1年間、3年間、10年間にわたり資産を保有したと仮定し、各基準月時点での程度のリターンが得られたかをシミュレーションしています。例えば、2025年7月末の年率リターンは、2025年7月末までに1年間、3年間、10年間保有した場合の年率換算したリターンを表示しています。

（出所）マン・グループ、ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

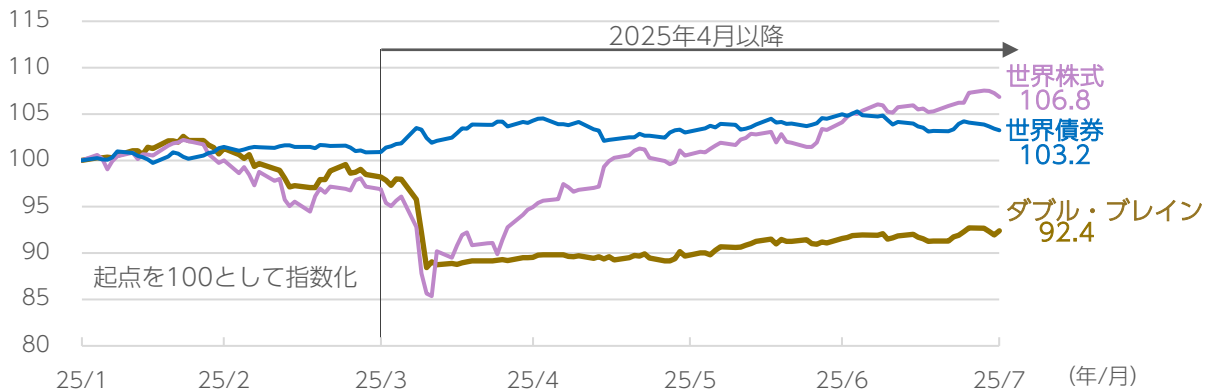
ファンドに関するQ&A

Q1

米国の関税政策を巡る不透明感などから株式市場は2025年4月に急落し、その後は反発しましたが、ファンドの基準価額の回復が限定的な理由について教えてください。

ファンドが株式市場の急落を受け、株式セクターへの投資配分比率を大きく削減するなどのリスクコントロール（リスク水準を一定の範囲内に保つこと）を行なったことが理由となります。世界株式が株式市場急落後の安値をつけた4月8日時点では、世界株式が-9.3%だったことに対し、ダブル・ブレインは-6.1%と比較的下落幅を抑制できました（2025年3月末比の騰落率）。一方、その後の株価反発局面では、リスクコントロールにより株式への投資配分比率が低位だったことからファンドのパフォーマンスは下落後の安値から緩やかな回復にとどまりました。

ダブル・ブレインと各指数（円ヘッジベース）のパフォーマンス推移



期間：2025年1月31日～2025年7月31日、日次

使用した指数等については12ページをご参照ください。ダブル・ブレインは基準価額を使用しています。上記期間において、分配金実績はありません。

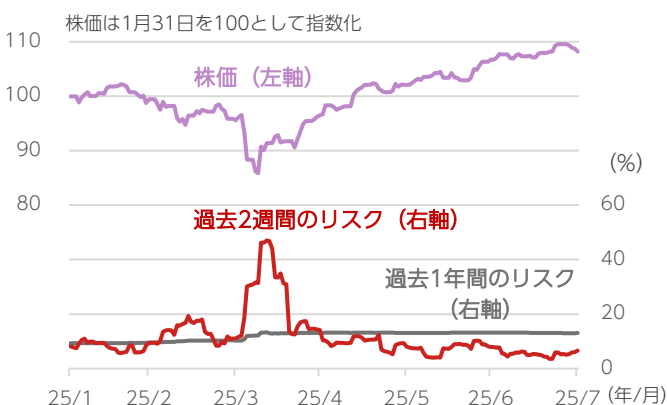
Q2

2025年4月に株式の投資配分比率を大きく引き下げた背景について教えてください。

2025年4月以降、米国の相互関税に関する発表を受け、株式市場では不安定な動きにより、リスクが急上昇したことから株式の投資配分比率を大きく削減しました。4月中旬は相互関税の発動延期により市場心理が改善し、株式市場は反発しました。その後、5月末にかけては株式市場のリスクが徐々に低下したことを受け、ファンドでは株式の投資配分比率を再度拡大しました。

ファンドは市場環境の変化に応じて24時間体制のリスクコントロールを行なっています。投資対象市場のリスクが高まった際は投資配分比率を圧縮し、リスクが低下した際は投資配分比率を拡大することで、急激な市場変動にも対応しています。

世界株式（米ドルベース）の株価とリスクの推移



期間：2025年1月31日～2025年7月31日、日次

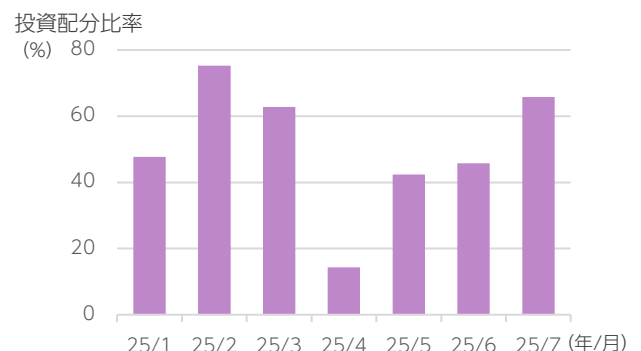
リスクは過去2週間と過去1年間における日次変化率の標準偏差を年率換算して算出しています。標準偏差とは、平均的な収益率からどの程度値動きが乖離するか、値動きの振れ幅の度合いを示す数値です。使用した指数については12ページをご参照ください。

（出所）マン・グループの提供情報、ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータおよび運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、作成時点の見解であり今後変更される場合があります。

ファンド全体における株式のウエイト

下記はダブル・ブレインが投資対象とする外国投資証券の運用実績です。



期間：2025年1月末～2025年7月末、月次

ファンドに関するQ&A

Q3

ファンド設定来、世界株式の上昇に対してファンドのパフォーマンスが劣後している要因を教えてください。

ファンドは、リスクコントロールを行ないながら株式以外にも債券など複数の資産に分散投資しているため、株式市場に連動した動きになるとは限りません。ファンドはリスクコントロールの結果、これまで債券市場にも相応の配分を行なっており（5ページ参照）、債券価格の変動による影響を受けました。ファンド設定来の騰落率では、世界株式が+75.3%となりましたが世界債券は-20.5%となり（4ページ参照）、債券価格の下落などがファンドのパフォーマンスが劣後した要因となりました。

Q4

米ドルなどに対して円安が進行しても、ファンドのパフォーマンスにはあまり影響がないようです。なぜでしょうか。

ファンドは効率的に収益を追求する目的のほか、為替変動リスクの低減を図る目的（ヘッジ目的）で為替予約取引※等を実質的に活用します。そのため、例えば2022年以降に円安が進行した中で、為替ヘッジを行っていない他のファンドは円安の恩恵による基準価額の上昇効果がありましたが、ファンドのパフォーマンスはこうした恩恵は受けませんでした。このようにファンドは円安の恩恵を受けづらい一方、円高によるマイナスの影響も受けづらいため、中長期での安定したパフォーマンスが期待されます。

※あらかじめ将来の為替レートを予約しておく（確定させる）取引。

ダブル・ブレインの推移



期間：2018年11月9日（設定日）～2025年7月31日、日次基準価額を使用しています。上記期間において、分配金実績はありません。

米ドル（対円）の推移



期間：2018年11月9日～2025年7月31日、日次

Q5

ファンドが強みを発揮しやすい局面について教えてください。

ファンドは、相場の継続的な上昇局面において特に強みを発揮すると考えられます。

各戦略の強みと弱みについては以下の通りです。不得意な局面でも各戦略が相互補完することで、運用効率の向上を図ります。

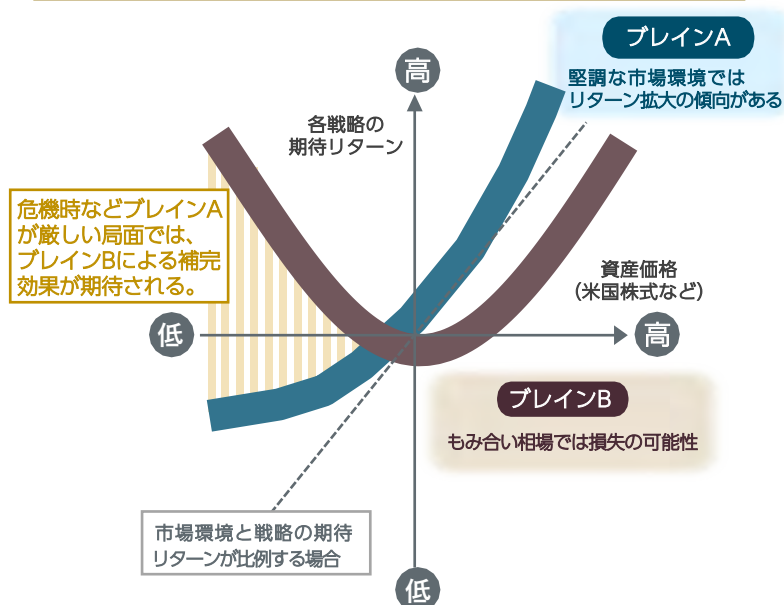
ブレインA（リスクコントロール戦略）

- 強み** 相場の継続的な上昇局面において収益の獲得が可能
- 弱み** 相場の大幅な下落局面では抑制されながらも、損失が発生する可能性

ブレインB（トレンド戦略）

- 強み** 相場の継続的な上昇・下落局面において収益の獲得が可能
- 弱み** 相場の反転時あるいは、相場のもみ合い時に損失の可能性

市場リターンと各戦略の期待リターンの関係（イメージ）



（出所）マン・グループの提供情報、ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。上記はイメージです

上記は過去のデータおよび運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、作成時点の見解であり今後変更される場合があります。

ファンドに関するQ&A

Q6

ファンドのパフォーマンスが堅調だった期間と軟調だった期間について教えてください。

ファンドは、市場の状況に順応するため24時間体制のリスクコントロールによる投資配分比率の調整を実施し、ポートフォリオのリスクを一定の範囲に保つ運用を行なっています。
例えば、ダブル・ブレインはポートフォリオのリスクを年率10%程度に維持しており、3ヵ月リターンで見ると設定月末までパフォーマンスが最も堅調だった期間は2019年5月末～8月末で+9.8%となりました。一方、最も軟調だった期間は2025年2月末～5月末で-11.5%となりました（10ページ参照）。

ダブル・ブレインの基準価額とリスクの推移



期間：（基準価額）2018年11月末（設定月末）～2025年7月末、月次

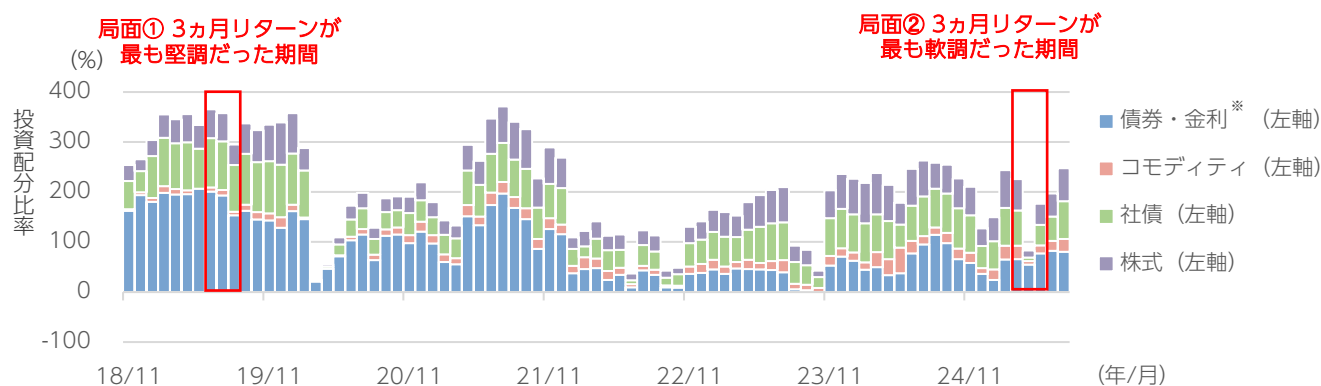
（リスク）2021年11月末～2025年7月末、月次

リスクは、過去36ヵ月における月間変化率の標準偏差を年率換算して算出しています。例えば、2021年11月末の値は、2018年12月～2021年11月の月間変化率を基に算出しています。標準偏差とは、平均的な収益率からどの程度値動きが乖離するか、値動きの振れ幅の度合いを示す数値です。

ダブル・ブレインは、上記期間において分配金実績がありません。

ファンド全体における各資産のウエイトの推移

下記はダブル・ブレインが投資対象とする外国投資証券の運用実績です。



※ 債券・金利はインフレ連動債を含みます。

期間：2018年11月末～2025年7月末、月次

(次ページへ続く)

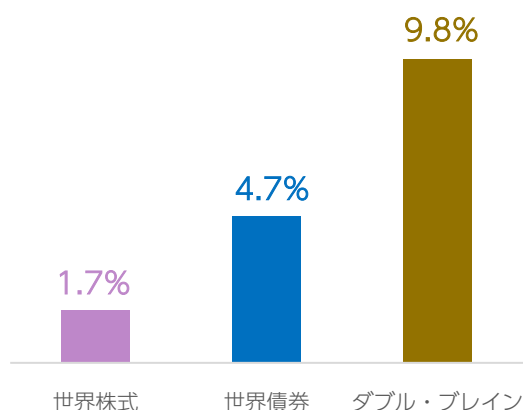
ファンドに関するQ&A

局面①：3ヵ月リターンが最も堅調だった期間（2019年5月末～8月末）

米中貿易摩擦や中東情勢の緊張の高まりがあったものの、欧米の金融緩和政策に前向きな姿勢などを受け、世界株式や世界債券は上昇しました。そのような環境下、ダブル・ブレインのパフォーマンスは+9.8%となりました。

戦略別では、リスクコントロール戦略およびトレンド戦略ともに、債券・金利セクターを中心に収益を獲得することでパフォーマンスにプラス寄与しました。

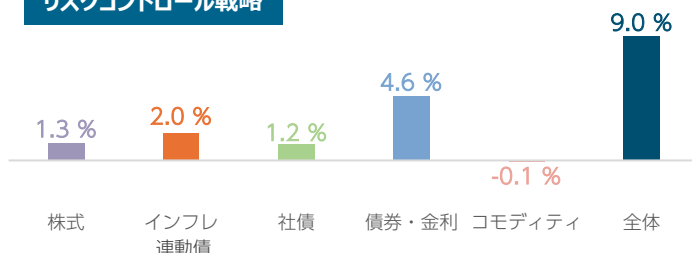
ダブル・ブレインと
各指数（円ヘッジベース）のパフォーマンス



各戦略の資産別寄与度

下記はダブル・ブレインが投資対象とする外国投資証券の運用実績です。

リスクコントロール戦略



トレンド戦略

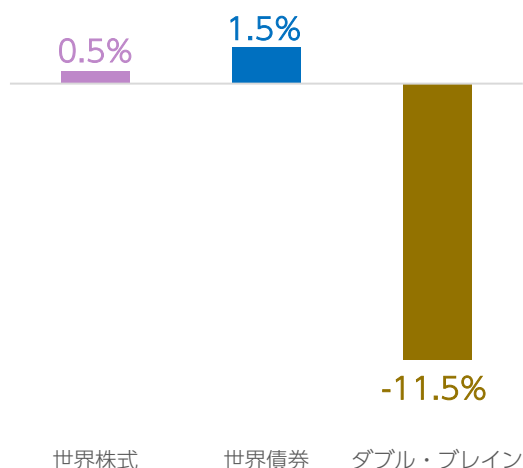


局面②：3ヵ月リターンが最も軟調だった期間（2025年2月末～5月末）

トランプ米大統領が相互関税の導入を発表したことにより、世界株式は大幅に下落する局面もありましたが、その後は相互関税の適用の一時停止が発表されたことなどから反発しました。

戦略別では、リスクコントロール戦略およびトレンド戦略ともに、リターンがマイナスとなりました。リスクコントロール戦略では主に株式セクターがマイナスに影響し、トレンド戦略では株式、通貨セクターなどがマイナス要因となりました。

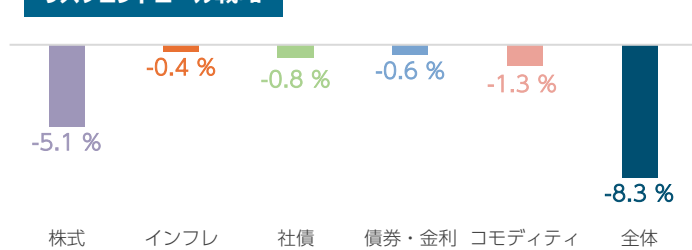
ダブル・ブレインと
各指数（円ヘッジベース）のパフォーマンス



各戦略の資産別寄与度

下記はダブル・ブレインが投資対象とする外国投資証券の運用実績です。

リスクコントロール戦略



トレンド戦略



各戦略の資産別寄与度の合計値は、投資している外国投資証券の月末基準のデータであること、外国投資証券およびダブル・ブレインにおいて運用管理費用等が発生すること、為替ヘッジコストまたはプレミアムが発生することなどから、ダブル・ブレインの騰落率と乖離が生じる可能性があります。使用した指数等については12ページをご参照ください。

（出所）マン・グループの提供情報、ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

ファンドに関するQ&A

Q7 ファンド設定来、運用戦略について改善を行なっていますか。

ファンドは、設定後もリスクコントロール戦略の改善に関する研究を継続し、ブレーキ機能やリスクコントロール（リスク水準を一定の範囲内に保つこと）の改善を実施しています。ファンド設定後に行なった主な改善は以下の通りです。

2020年1月：株式と債券の同時下落を察知するためのモニタリングの範囲を1カ国（米国）から9カ国（米国、カナダ、ドイツ、フランス、英国、イタリア、オーストラリア、日本、韓国）に拡大。

2021年4月：株式と債券の同時下落を察知するために使用していた高頻度データ（10分毎）を、リスクコントロールの目的でも使用開始。

2025年3月：リスクコントロールに用いる市場データについて、近い将来における米国株式市場の価格変動（現水準からの上昇および下落）の予想範囲を表すVIX指数を追加。

Q8 第二次米トランプ政権になってから乱高下が起こる相場が続いています。このような相場はファンドにとって逆風なのでしょうか。

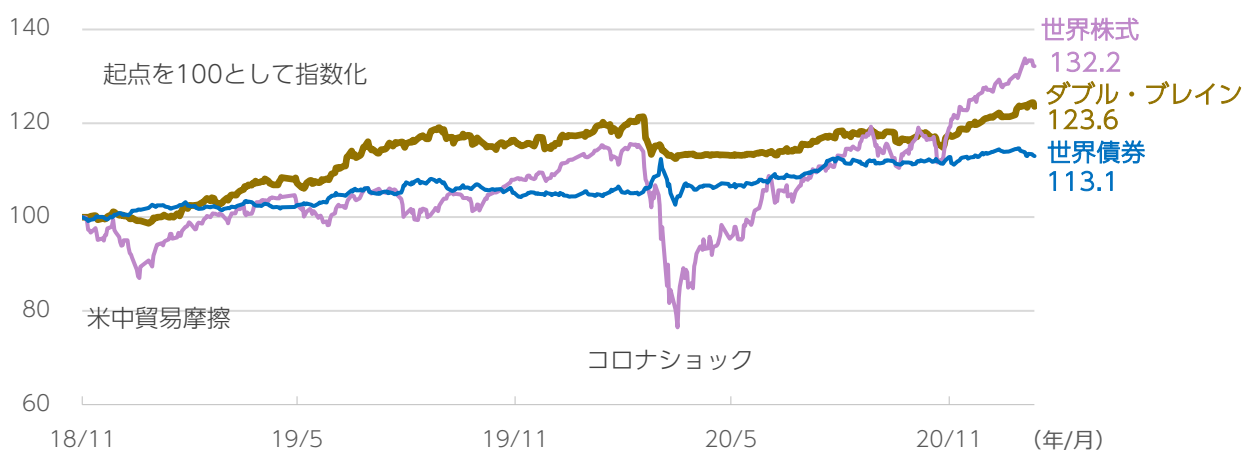
ファンドのパフォーマンスは様々な要因の影響を受けますが、第一次米トランプ政権時のパフォーマンスを振り返ってみましょう。

ダブル・ブレインは第一次米トランプ政権時（2017年1月～2021年1月）の2018年11月9日に設定されましたが、市場はその間も乱高下する局面がありました。

米中貿易摩擦やコロナショックによる株式市場の大幅下落局面でも、ダブル・ブレインはリスクコントロールにより株式への投資配分比率を引き下げて損失を相対的に抑制しました。その後、株式市場が落ち着くと株式への投資配分比率を引き上げたため、株式市場や債券市場の上昇に伴い堅調に推移しました。

引き続き、市場リスクを慎重にモニタリングした上で投資配分比率を日々決定し、中長期での資産成長を目指します。

ダブル・ブレインと各指数（円ヘッジベース）のパフォーマンス推移



期間：2018年11月9日（設定日）～2021年1月20日（第一次米トランプ政権の終了日）、日次
 ダブル・ブレインは基準価額を使用しています。上記期間において、分配金実績はありません。
 使用した指数等については12ページをご参照ください。

今後の見通しとファンドの運用方針

- 現在、市場参加者の多くは、インフレが鈍化して景気はやや減速するものの、基本的には「米国主導の良好な世界景気」が維持され、株高トレンドが続くと考えています。一方で、米トランプ政権の政策の不確実性やテクノロジー株の割高感などの不安材料もあります。もし米国の景気が悪化した場合などには株安・債券高・円高とトレンドが変化する可能性もあるとマン・グループでは見えています。
- そのような環境下、ファンドでは市場リスクを慎重にモニタリングした上で投資配分比率を日々決定し、中長期での資産成長を目指します。引き続きご愛顧いただきますようよろしくお願い申し上げます。

(出所) マン・グループの提供情報を基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

<当資料で使用了指数等について>

- 世界株式（米ドルベース）：MSCI All Country World Index（配当込み、米ドルベース）。
- 世界株式（円ヘッジベース）：MSCI All Country World Index（配当込み、米ドルベース）と円/米ドルの3か月フォワードレートとスポットレートの実勢値を基に算出。
- 世界債券（円ヘッジベース）：FTSE世界国債インデックス（米ドルベース）と円/米ドルの3か月フォワードレートとスポットレートの実勢値を基に算出。
- コモディティ（円ヘッジベース）：ブルームバーグ商品指数（米ドルベース）と円/米ドルの3か月フォワードレートとスポットレートの実勢値を基に算出。
- 3資産バランス（円ヘッジベース）：世界株式（円ヘッジベース）、世界債券（円ヘッジベース）、コモディティ（円ヘッジベース）を1/3ずつの割合で、各資産の日次騰落率を基に日次バランス（相場変動などにより変化した投資比率を調整し、1/3ずつの割合を維持）を行なったものとして、野村アセットマネジメントが独自に算出。
- MSCI All Country World IndexはMSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。● FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。● 「Bloomberg®」は、Bloomberg Finance L.P.および、同インデックスの管理者であるBloomberg Index Services Limitedをはじめとする関連会社（以下、総称して「ブルームバーグ」）の商標およびサービスマークです。ブルームバーグまたはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

ダブル・ブレイン（試算、円ヘッジベース）は、ダブル・ブレイン（試算）と円/米ドルのスポットレートと3か月フォワードレートから算出した為替ヘッジコストを基に算出された合成リターンからファンドの信託報酬率（年0.913%）（税込）を控除して算出（期間に応じて消費税率を3%、5%、8%、10%に変更して算出）。純資産総額相当の米ドル売り円買いの為替取引に係るコスト控除後の数値を使用しています。ダブル・ブレイン（試算）についての詳細は以下をご参照ください。

各戦略のパフォーマンス等について

リスクコントロール戦略：1996年4月～2014年12月はシミュレーションデータ、2015年1月以降は当戦略の代表ファンドである「Man Funds VI PLC - Man AHL TargetRisk」の実績（関連費用控除後）です。米ドルベース。シミュレーションデータは当戦略の考え方に基づき、月次で算出した各投資対象の投資配分と月間リターン（先物指数等のリターン）を基に代表ファンドと同様の関連費用を控除し、マン・グループが算出しております。シミュレーションデータは、当戦略の実際のパフォーマンスを示すものではなく、将来の運用成績を示唆するものではありません。

トレンド戦略：当戦略の代表ファンドである「Man Funds VIII ICAV - Man AHL Diversified」（1996年4月～2007年12月）と「Man AHL Diversified PCC Limited」（2008年1月以降）の実績（関連費用控除後）です。米ドルベース。

ダブル・ブレイン（試算）について

「リスクコントロール戦略」と「トレンド戦略」のリターンに関連費用を差し戻し、それぞれの戦略の費用控除前リターンをマン・グループが算出。各戦略の費用控除前の月間リターンをリスク配分比率がおおよそ80:20となるように各戦略の投資比率を調整し、算出した合成リターンから、ファンドが投資する外国投資証券の信託報酬率（年1.1%）を控除して算出しております。なお、実際の運用においては投資比率が変更される場合があります。実在するポートフォリオの資産配分比率の推移でも、リターンの推移でもありません。過去の売買実行可能性および売買手数料、税金等の費用は考慮していません。ファンドの運用においては、売買コストや信託報酬、運用資産の規模、設定解約に伴う資金流出入などによる影響が生じます。そのため、ファンドの運用成果を示唆するものではありません。これらは過去の算出結果および試算結果であり、将来を約束するものではありません。2018年12月以降は、ファンドが投資する外国籍投資信託「マン・ファンズIX-マン・インスティテュショナル・ポートフォリオ・チタニウム（運用報酬等控除後）」を基に米ドルベースで算出したデータになります。

ファンドの主な特色

ダブル・ブレイン

世界各国(新興国を含みます。)の株式、債券等を実質的な主要投資対象^{※1}とし、株式、債券、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等を実質的な主要取引対象^{※1}とし、中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行うことを基本とします。

※1 ファンドは外国投資法人の円建て外国投資証券「マン・ファンズIXーマン・インスティテューショナル・ポートフォリオ・チタニウムー日本円クラス」および国内投資信託「野村マネーインベストメント マザーファンド」を投資対象とするファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。「実質的な主要投資(取引)対象」とは、外国投資法人や「野村マネーインベストメント マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資(取引)対象という意味です。

ダブル・ブレイン(マイルド)

世界各国(新興国を含みます。)の株式、債券等を実質的な主要投資対象^{※2}とし、株式、債券、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等を実質的な主要取引対象^{※2}とし、中長期的な信託財産の成長と安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行うことを基本とします。

※2 ファンドは外国投資法人の円建て外国投資証券「マン・ファンズIXーマン・インスティテューショナル・ポートフォリオ・バナジウムー日本円クラス」および国内投資信託「野村マネーインベストメント マザーファンド」を投資対象とするファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。「実質的な主要投資(取引)対象」とは、外国投資法人や「野村マネーインベストメント マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資(取引)対象という意味です。

ダブル・ブレイン(ブル)

世界各国(新興国を含みます。)の株式、債券等を実質的な主要投資対象^{※3}とし、株式、債券、商品等に関連するデリバティブ取引、為替予約取引等を実質的な主要取引対象^{※3}とし、中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。

※3 ファンドは外国投資法人の円建て外国投資証券「マン・ファンズIXーマン・インスティテューショナル・ポートフォリオ・クロムー日本円クラス」および国内投資信託「野村マネーインベストメント マザーファンド」を投資対象とするファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。「実質的な主要投資(取引)対象」とは、外国投資法人や「野村マネーインベストメント マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資(取引)対象という意味です。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク／お申込みメモ／当ファンドに係る費用

投資リスク

各ファンドは、外国投資証券等への投資を通じて、株式、債券等を実質的な主要投資対象としますので、当該株式の価格下落、金利変動等による当該債券の価格下落、当該株式の発行会社、当該債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により基準価額が下落することがあります。また、株式、債券、商品等に関連するデリバティブ取引等を実質的な主要取引対象としますので、株価変動、債券価格変動、商品市況変動等の影響により基準価額が下落することがあります。また、為替予約取引等を実質的な主要取引対象としますので、為替の変動の影響により基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※ファンドの基準価額の変動要因には、この他にも、代替手法に関するリスク、取引先リスクなどがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

お申込みメモ

信託期間	2028年11月22日まで(「ダブル・ブレイン」は2018年11月9日設定、「ダブル・ブレイン(マイルド)」「ダブル・ブレイン(ブル)」は2021年3月3日設定)
決算日および収益分配	年1回の毎決算時(原則、11月22日(休業日の場合は翌営業日))に、分配の方針に基づき分配します。
ご購入時	ご購入価額 ご購入申込日の翌々営業日の基準価額
	ご購入代金 販売会社の定める期日までにお支払いください。
	ご購入単位 販売会社によって異なります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
ご換金時	ご換金価額 ご換金申込日の翌々営業日の基準価額
	ご換金代金 原則、ご換金申込日から起算して6営業日目から販売会社でお支払いします。
	ご換金制限 大口換金には制限を設ける場合があります。
その他	スイッチング 「ダブル・ブレイン」「ダブル・ブレイン(マイルド)」「ダブル・ブレイン(ブル)」間でスイッチングが可能です。 *販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取り扱いを行わない場合があります。
	お申込不可日 販売会社の営業日であっても、お申込日当日あるいはお申込日の翌営業日、下記のいずれかの休業日と同日の場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込ができません。 ・ロンドンの銀行 ・ダブリンの銀行 ・ニューヨークの銀行
課税関係	個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。ファンドはNISA(少額投資非課税制度)の対象ではありません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

※お申込みの際には投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

販売会社によっては、一部のファンドのみのお取り扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

当ファンドに係る費用

(2025年9月現在)

ご購入時手数料	ご購入価額に 3.3%(税抜3.0%)以内 で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
＜スイッチング時＞	販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取り扱いを行わない場合があります。
運用管理費用(信託報酬)	ファンドの保有期間中に、期間に応じてかかります。 ・純資産総額に年0.913%(税抜年0.83%)の率を乗じて得た額 ・実質的にご負担いただく信託報酬率(信託報酬に、ファンドが投資対象とする外国投資証券の信託報酬を加えた概算値) 「ダブル・ブレイン」: 年2.013%程度(税込) 「ダブル・ブレイン(マイルド)」: 年1.863%程度(税込) 「ダブル・ブレイン(ブル)」: 年2.313%程度(税込)
その他の費用・手数料	ファンドの保有期間中に、その都度かかります。 (運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。) ・組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料 ・監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・ファンドに関する租税 等
信託財産留保額(ご換金時、スイッチングを含む)	ありません。 上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。 ※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

NOMURA

野村アセットマネジメント

設定・運用は

商号：野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会：一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先：野村アセットマネジメント株式会社

●サポートダイヤル ☎ 0120-753104 <受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

●ホームページ

<https://www.nomura-am.co.jp/>





【当資料について】

- 当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。

【お申込みに際してのご留意事項】

- ファンドは、元金が保証されているものではありません。
- ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- 投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。
- ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○		○	○
株式会社常陽銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
株式会社第四北越銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第47号	○		○	
株式会社中国銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第2号	○		○	
株式会社宮崎銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第5号	○			
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2938号	○			
静銀ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第10号	○			
北洋証券株式会社	金融商品取引業者	北海道財務局長(金商)第1号	○			
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第105号	○			○
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第6号	○			
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○			
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第20号	○			
FFG証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第5号	○			○
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第181号	○	○		

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

ダブル・ブレイン(マイルド)

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○		○	○
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第105号	○			○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

ダブル・ブレイン(ブル)

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○		○	○
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第105号	○			○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。